

# 平成22年度 佐賀市立富士南小学校 学校評価計画

1 学校教育目標
<b>やさしさとキラッと輝く瞳をもち 学び合い高めあう心豊かな児童の育成</b>

2 学校経営ビジョン
児童の学力を高めるため、学習習慣、生活習慣の定着とともに、豊かな心の育成をめざす。 地域と連携した教育活動を推進し、地域や保護者に信頼される学校をめざす。 学校目標具現化に向けた組織の再編をはかり、教職員の資質の向上をめざす。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>重点1 人のかかわりを通してやさしさを育て、心身ともに健やかな子どもを育てる。</p> <p>重点2 校内研究を推進し児童の自尊感情を育て、学力を高める。</p> <p>重点3 家庭・地域との連携を図り、協力を求める。</p> <p>重点4 幼保小並びに小中の連携を図る。</p> <p>重点5 特別支援教育への専門的研修を深め職員の資質向上を図る。</p>	<p>前年度よりの課題であった「児童のやる気と自尊感情の育成」にはまだ十分とはいえないが、「響き合い、学び合いながら伸びていく心豊かな子どもの育成」を掲げた校内研究実践や全校が一斉に集中した時間を共有する「朝読書」や人権教室での学習は、この課題解決に向けた大変有効な取り組みであり、今後も是非続けていきたいと考えている。</p> <p>校内研究の積み上げにより、児童の「響き合い、学び合い」が少し見え始めている。人へのやさしさは自分を大切に思う気持ちから生まれるものであることを意識づけながら実践を重ねていきたい。</p> <p>学力向上を図るために掲げている学習習慣の確立については、職員の日々の取り組みはもちろん、保護者の深い理解と協力がなくてはできないものである。引き続き次年度の重点目標として掲げ保護者への効果的な働きかけ方を考えていきたい。</p>

5 総括表				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知	学校だよりの月2回発行 校内環境の整備充実を図る	・児童の学習の様子やがんばりを保護者や校区の方々に伝える。 ・教育目標を校内に掲示し、児童、保護者、来校者にアピールする。
	開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・フリー参観デーを設け、保護者90%以上、地域の方々40名以上の来校をめざす。 ・学校ホームページのリニューアルを行い、広く地域や保護者へ閲覧を呼びかける。	・保護者へのお便りを定期的に発行し、HPの掲載等で、来校を促す。 ・各地区回覧板を通してお便りを配布し、学校の取り組みを知らせる。
	地域との連携	地域の人材活用と連携	・「祖父母に学ぶふれあい学級」や「親子で新年を祝う会」など、地域・保護者との交流を通して、地域に根ざした学校行事を推進する。	・ふれあい学級では、祖父母の活動希望調査をとり、40名以上の参加をえて、技と知恵を学ばせ、新年を祝う会で地域の方々とともに伝統行事の体験を通して新年のスタートとする。 ・地域人材を活用し、芸術教科の指導充実を図る。
	教職員の資質向上	校内研修を通じた授業力の向上	・学級経営方針をたて、授業力のアップをめざす。 ・表現活動の中で、聴き合う関わりを通して、学び合う力を育てる。	学級経営案にそって実践を重ね、学期ごとの評価を行い軌道修正をはかる。学び合う姿をもとめ、関わり合わせ方や、教師の児童を見取る力を高める。
教育活動	学力の向上	学習習慣の確立と学力の向上	・児童の自尊感情を高め、学習意欲を向上させる指導を行い、学力をアップさせる。 ・家庭と連携した取り組みを強め、児童の学力向上をめざす。	・基礎基本を身につけさせる時間を確保し「思考力」「読解力」を培う授業のあり方を工夫する。 ・生活ふりかえりカードを通して、家庭での学習習慣の定着を図る。
		図書館教育の充実	・全校あげて「本」に親しみ、生活の中に「読書」を定着させる。	週4回の読書タイムを継続する。各学年に応じた「本のリスト」を提示し、良書に親しませ読書の量から質への向上を図る。家庭読書の時間を設定する。

	心の教育	人権教育の充実	児童の人権感覚や生命の尊重を育む。 縦割り活動を通して人との関わりを学ぶ。	・毎月、第4水曜日(年間6回)に「人権教室」を実施し、全校での集会や発達段階に合わせた低・中・高学年グループでの指導を行い、「ほかほかことば」や「ほかほかアクション」を推進する。 ・縦割り班活動を中心に主体的な児童会活動を推進する。
		道徳教育の充実	・生命の尊さや道徳的心情について学ばせ、道徳的实践力を養う。 ・いじめの悪に気づかせる。	・9月の授業参観は、全学級で道徳の授業を組み、保護者とともに考えさせる。 ・毎月1日は「いじめ・命を考える日」として設定し、児童のお互いの気持ちを交流させる。
	健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・正しい食習慣の定着と睡眠時間の確保をめざす。	・学校便りにより保護者への啓発活動を行う。 ・学期に1回一週間の期間を区切り、生活習慣調査を行い、意識化を図る。
		たくましい体づくり	・体育大会での全校種目でスタンツ(組体操)に取り組み、児童の基礎体力向上につとめる。 ・水泳学習の充実を図り、児童の健康的な体づくりをめざす。 ・地域で行われる体育的な行事に積極的な参加を呼びかける。	・3年から6年までの合同体育を11時間実施し、個人の能力にあった技を計画的に習得させる。 ・水泳指導時間を15時間以上設定する。 ・地域で行われる「すもう大会」「マラソン大会」の練習を計画的に実施し、参加率70%をめざす。
特定課題	小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・けじめのある学校生活を送らせる。 ・学習のきまりを身につけ、学習方法を身につけさせる。	・学習指導をくり返し行う。 ・「朝の会」で一日の見通しを持たせ、「帰りの会」でふり返り(自己点検)をさせながら定着を図る。 ・学習態度に関する約束事を教室に掲示する。 ・話し合いの場面を授業の中で多く取り入れる。
	他校種との連携	幼・保・小連携	・1年生全員を学校大好きにする。 ・保育園との交流を年間3回以上設定する。	・ソフトプログラム「わくわく」を活用する。 ・あらかじめ年間計画に設定しておく。
		小・中連携	・中学校への自然な移行ができ、いっそうの学力の向上をめざす。	・中学校校区での職員研修会を設け、「人権・同和教育」「教育相談」研修会を実施する。 ・9年間を見通した指導事項や、学習習慣を明らかにし、推進する。 ・「学習の手引き」を作成し保護者の連携に対する意識を高めてもらう。
	特別支援教育	見守りたい子への支援強化	・児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた目標を個別の指導計画に取り上げ、その目標を達成する。	・職員の研修を年8回実施し、特別支援に対する職員研修の充実を図る。 ・スクールカウンセラーや巡回相談員等、専門家の意見を取り入れていく。

は共通評価項目、 は独自評価項目